

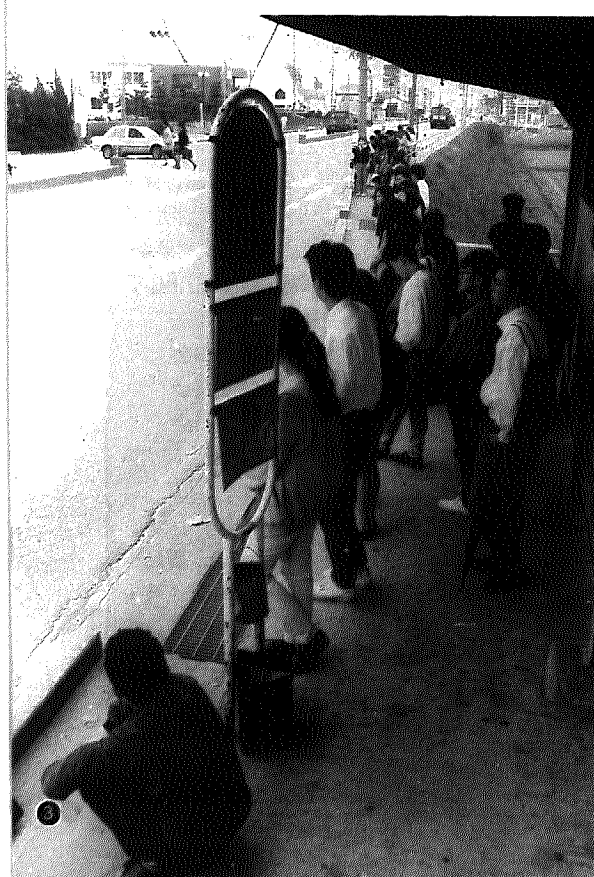


試験場の全景
国道8号線から信濃川の新堤防までの河川敷にある。面積は三万九〇〇〇平方メートル(一万二〇〇〇坪)。右は試験場建物。昭和三十五年に完成。職員は約八十人。



バス停も「上山田」に

試験を終え、帰り(新潟市方向)のバスを待つ人々。1日平均540人が受験。学校の春休みや夏休みの期間が増え、多いときは800人も。バス停の名称は「自動車試験場前」から「上山田」に変更される。



と運転者の安全教育を行うためである。四十九年から用地買収を始め、万坪を確保した。試験場もここへ移転する計画であった。
ところが、六十一年一月に県は東港への移転を発表。町や町民へは全く知らされておらず、寝耳に水の出来事であった。県は理由を①寺地の二万坪は狭い。四万坪は必要だが財政的にこれ以上の買収は難しい。②寺地は住宅地であり騒音公害の心配がある。③将来的に東港の方がよい、などと説明した。これに対し、町、町議会は強く反対した。①試験場は黒崎町のかわである。②周辺の個人教習所や飲食店への影響。③試験場という事で寺地の用地買収に協力。④東港は遠いのが理由であった。
しかし、跡地に県の観光物産センターが出来ること(平成三年春の予定)寺地には総合病院の進出計画、県の住宅供給公社の団地建設が明らかになり、東港にセンターが着工されると、移転は覆せなくなった。昨年十月には試験場内の整備工場と交通機動隊が移転している。昨年一年間で十四万人、一日平均では五四〇人が訪れていた試験場は、この三十年間、黒崎町の宣伝をしていくれた。ありがとう試験場、さようなら試験場。

五月二日、三十年の歴史に幕

黒崎町のシンボル、が一つ消える。「黒崎ってどこにあるの」と訊かれたとき、「ほら、あの試験場がある」とこと答えた私たちの試験場が新潟東港(北蒲原郡聖籠町)へ移転する。寺地にある交通安全センターも一緒に移転する。黒崎町にある交通安全センターも一緒に移転する。五月六日にオープンする。私たちの試験場はこの日まで業務を終える。交通安全センターも、日まで黒崎町山田に「新潟県自動車運転免許試験場」が、新潟市の昭和入橋東詰め(今は新潟東寄がある)から越して来たのは昭和十四年である。敷地は一万二〇〇坪。翌年に現在の建物で完成し業務を開始した。試験をはじめ再交付や国外免許など免許全般を取り扱う。県内で免許を取るためには黒崎へ来なければならなかった。車社会の到来とともに、四十一年に上越の柿崎町に、四十二年に中越の長岡市にも試験場が出来たが、黒崎が中心であった。五十一年、県は黒崎町寺地に「交通安全センター」を建てた。免許の更新手続きを一括して行うため

県の免許人口一三三万人

新潟県の免許人口は一三三万人。二人に一人である。免許の受験者は昭和三十年代(三十四年以降)一〇三万人、四十年代二四七万人、五十年代二三三万人、六十年代(六十三年まで)六九万人である。
黒崎の試験場では普通免許から大型、二種、特殊、二輪、原付などの試験をしている。

ポプラ並木の名所

試験場の東側と信濃川の堤防側には美しいポプラ並木がある。



周辺の商店街は……

試験場の周りには、個人教習所や写真店、食堂などが集まっている。移転の影響が心配される。教習所は試験場とともに移ることも多い。観光物産センターに期待するほかないようだが、センターの詳細は未定。

